

## 令和4年度海岸漂着物実態調査の結果（概要）

県内海岸における漂着物の経年的な組成と量の推移等を把握するために、組成調査を実施

【調査時期】 令和4年12月（冬季）

【調査地点】 4地点※

※美濃が浜（山口市）については、海浜広場が整備され、海岸清掃が実施されるなど、漂着物の実態把握が困難なため、令和4年度調査からは、中浦海岸（防府市）に地点変更



【調査結果】

- ・瀬戸内側は重量比で自然物の割合が高く、響灘側は自然物及びプラスチックの割合が同程度であり、日本海側はプラスチックの割合が高かった。
- ・瀬戸内海側の人工物では、カキ養殖用資材が多く認められた。
- ・響灘側の人工物では、ロープなどの漁具やプラスチック製品の破片などが多く認められた。
- ・日本海側の人工物では、ペットボトルが多く、国外からの漂着物が目立った。
- ・人工物を過年度と比べると、令和4年度は、プラスチックの割合が増加し（R1：平均84.3%、R2：69.6%、R3：49.0%、R4：74.0%）、木材などのその他人工物の割合が減少した（R1：平均15.7%、R2：30.4%、R3：51.0%、R4：26.0%）。

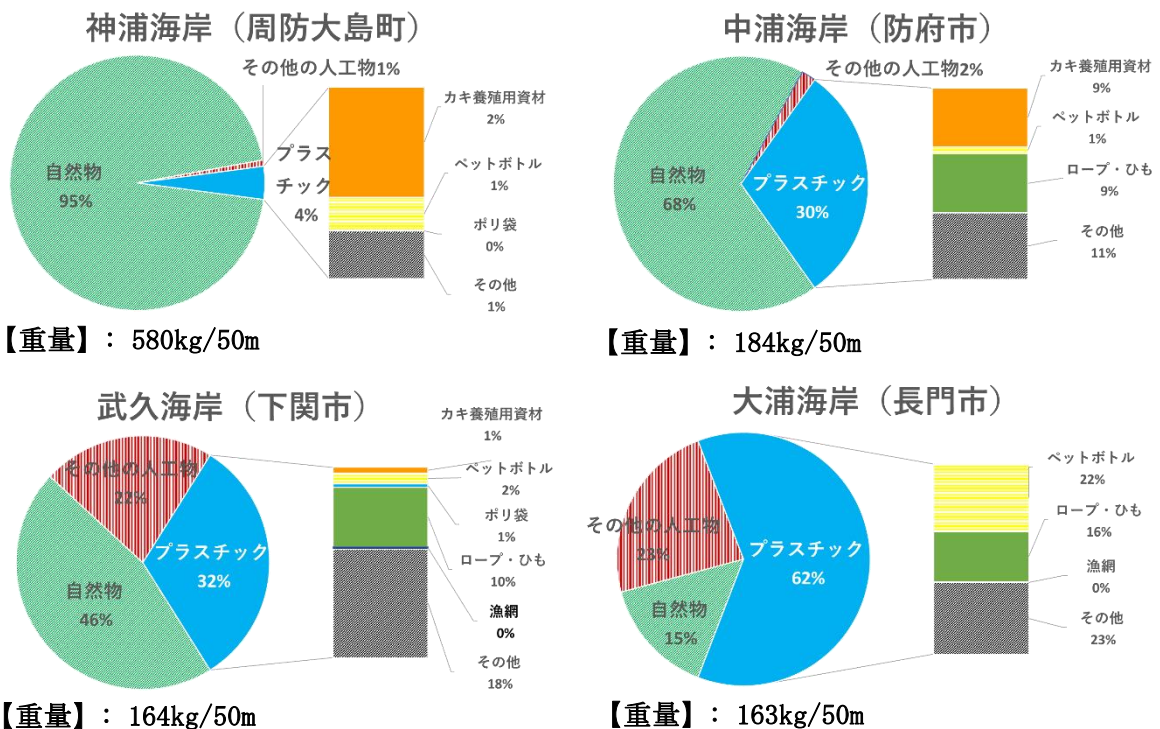


図 海岸漂着物の組成（重量）